

分担研究報告書

歯科診療所における恒常的な医療安全管理の基盤構築に関する研究

分担研究者 宮本智行 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科助教

研究要旨

本研究は、歯科診療所におけるインシデント等の実態調査を継続的に実施し、要因分析・検討を行なうことで患者中心の医療安全構築のための情報共有のあり方を検討する。公益社団法人日本歯科医師会や日本歯科衛生士会等とも連携し、訪問歯科診療等も含めた歯科診療所におけるインシデント等の収集・分析・提供のためのシステムをインターネット等を活用して構築するとともに、我が国のいかなる規模・形態の歯科診療所においても院内感染対策等も含めた恒常的な安全管理を実践出来る基盤構築を、地域歯科医療の実態に即し目指すものである。平成 26 年度に作成した模擬事例については平成 27 年度に歯学部学生教育に活用し有用であった。平成 27 年度の実態調査においては、さらに規模を拡大し、全国 47 都道府県に研究協力を依頼し、ネットワーク構築を行った。本システムに関する照会や必要に応じて研究班員が直接出向いてヒヤリングを行なった。平成 27 年 11 月～12 月にかけて実態調査を行ない、46 都道府県、342 歯科診療所より 1304 件の報告があった。一般社団法人医療安全全国共同行動診療所部会（歯科）等にて要因分析等の検討にて、歯科診療所における医療の質・安全関連情報（案）を作成した。研究成果の一部について医療の質・安全学会学術集会等にて発表した。

A．研究目的

本研究の目的は、歯科診療所における安全確保を最終目的とし、歯科診療所におけるインシデント等の効率的な情報収集・分析・提供およびその活用のあり方を検討し、我が国のいかなる規模・形態の歯科診療所においても恒常的に医療安全管理を実施可能なシステムの構築を目指すものである。

我が国の歯科医療の中心を担う 6 万 8 千超の無床歯科診療所は小規模・個人立であり、医療法施行規則に定める医療事故情報収集事業においても歯科診療所におけるインシデント等の情報は収集されにくい環境にある。しかしながら、歯科においてもインシデント等を収集・分析し、歯科医療従事者

に対し情報を提供し，その情報を臨床現場で共有し，医療の安全を高めてゆく必要がある（宮本智行：我が国の歯科医療における良質かつ安全な医療の推進を目指して．医療の質・安全誌．2012．）．森崎，宮本らが行なった平成 21 年度厚生労働科学研究では，歯科に特化した収集様式を開発し多施設の協力のもと，総計 27,857 件の報告を得ており，その内容は，歯冠修復補綴物等の口腔内への落下，誤飲・誤嚥等に関するものなどがあり，その内容の分析結果には安全管理に資する情報が多く存在していることが判った（嶋田昌彦，森崎市治郎ら：平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金総括研究報告書）．現在，口腔機能の低下した高齢者等に対する安全管理の重要性が高まっているにもかかわらず歯科分野では情報収集過程における課題があり，国レベルにおいても実態把握が困難な状況にある．

本研究の特徴は，全国規模で医療事故等の情報を持続的に収集・分析・提供することが実施可能となるよう，公益社団法人日本歯科医師会等と連携し，訪問歯科診療を含む様々な歯科診療行為におけるインシデント等の収集・分析・提供のためのモデルシステムを構築するために，平成 26 年度は，まず，第一に全国的な規模での収集・分析・提供に関する試行を実施し，第二にインターネット等を活用した歯科診療所におけるインシデント収集・分析・提供のあり方を検討し，恒常的に医療安全管理の基盤構築を強化するシステム構築を目指した．その

ためにはまず，インシデント等の医療安全関連情報について，歯科診療所に従事する全ての関係者が共通の基準等で判断できる必要がある．そこで我々は先行研究をもとに，歯科診療所に特化したインシデント模擬事例を作成し，良好な評価であった．

平成 27 年度においては，．全国的規模での実態調査ならびにデータ解析，．本システムの評価，医療安全に関連したアンケート調査，．歯科診療所に特化した医療安全関連情報収集・共有システム（仮版）の運用および改良，．歯科診療所における恒常的な安全管理の基盤構築等について，歯科診療所における恒常的な医療安全管理の基盤構築のモデル作成について検討した．

## B．研究方法

．全国的規模での実態調査ならびにデータ解析

前年度に改良したシステムを継続的に運用し，公益社団法人日本歯科医師会等の協力を得て，調査規模を全国 47 都道府県に拡大（47 都道府県×25 歯科診療所，計 1,175 か所程度無作為注出）する．我が国の歯科診療所における有害事象の頻度や内容等について定量化を試み，評価する．この際，歯科診療所の地域，形態，規模等別の分析を行なう．

・本システムの評価，医療安全に関連したアンケート調査

調査対象に，本システムの評価ならびに医療安全に関連したアンケート調査を行う。

・歯科診療所に特化した医療安全関連情報収集・共有システム（仮版）の運用および改良

情報収集の汎用性をさらに整備し，要因分析を継続，公益財団法人日本医療機能評価機構医療事故情報収集等事業における関連情報についても参考にし，歯科診療所に特化した医療安全関連情報収集・共有システム（仮版）を運用し，必要な改良を行う。

・歯科診療所における恒常的な安全管理の基盤構築

地域医療安全における本システムの運用を評価・改善し，歯科診療所における恒常的な医療安全管理の基盤構築のモデル作成について研究計画を立案し，ネットワーク構築を支援する。これらの研究について分担研究者として研究を遂行する。

また，

平成 26 年度における模擬事例については歯学部学生教育に活用，本システムに関する照会に対しての回

答や，本研究班員が研究協力歯科診療所担当者へ直接ヒヤリングする機会等の調整を行い，改善策等を検討，歯科診療所における医療の質・安全関連情報（案）を作成，などを遂行する。

歯科診療所に特化したインシデント模擬事例の歯学教育への活用においては，

1．授業内容について

1-1 多くを学べたか

1-2 理解できたか

2．授業担当者・授業方法について

2-1 進度は適切か

2-2 興味を持ったか

2-3 準備は十分だったか

2-4 説明は分かりやすかったか

2-5 学生の思考，分析，理解を促したか

2-6 教材は適切だったか

3．授業態度

3-1 質問への対応は適切だったか

3-2 授業中熱心に取り組んだか

3-3 自習は熱心に取り組んだか

4 総合点

について，5 段階の評価ならびに次の 12 模擬事例等についてアンケート調査を行った。

模擬事例：事例番号 01

発生日時：2013 年 1 月 4 日 14 時頃

当事者および関係者：

湯島太郎，歯科医師，経験年数 5 年，勤務年数 1 年

茶水花子，歯科衛生士，経験および勤務年数 2 年

山上天一，歯科医師，院長，経験年数 25 年，開業年数 18 年

丸内桜子，受付，勤務年数 18 年

患者：田中八郎，男性，70 歳代

事例内容：院長室にて

湯島太郎

「おはようございます。山上院長，報告があります。昨日，患者田中八郎さんの右上 6 のインレーをセットしようとしたところ，調整中に口腔内に落としてしまいました。舌根部に落下したインレーが見えていたので，花子さんがバキュームをしてくださいましたが，急に喉の奥にいれたものですから，田中さんがむせて起き上がってしまったので，インレーを飲んでしまいました。」

「花子さん，きちんと吸ってくれないと困りますよ。」

茶水花子

「太郎先生こそ，先週の印象の時も大変だったじゃないですか。田中さんの血圧がとっても高くなってしまいうし。田中さんはご高齢ですし，脳梗塞で左麻痺が若干ありま

すから，もともとむせやすいのを御存知じゃないのですか？新年早々，なんでも，人のせいにしないでください。」

湯島太郎

「院長の特別の患者さんとは聞いているけど，そんなことは桜子さんからまったく聞いてなかったよ。」

山上天一

「まあまあ，昨日は新年会で，不在ですまなかったねえ。その件なら，桜子さんから昨日の夕方ぐらいに，電話をもらったよ。八郎さんに直接電話してみたら，呼吸苦などはないらしい。いちおう心配なので，知り合いの猪鹿病院の猪鹿院長先生に直接連絡して，胸腹部のレントゲン写真をお願いしておいたよ。」「念のためだけどね。」

「その後，八郎さんから連絡があって，猪鹿先生から消化管内にあり，症状もないので様子を見ましようと言われたそうです。」

湯島太郎

「御迷惑をおかけして本当に申し訳御座いませんでした。」

丸内桜子

「今朝，担当の馬野先生から連絡があって，以前に八郎さんは大腸癌で手術しているので，排泄されるまではこちらでも経過を観察しますとのことでしたよ。」

模擬事例：事例番号 02

発生日時：2013年2月4日 11時頃

当事者および関係者：

茶水花子，歯科衛生士，経験および勤務年数2年

山上天一，歯科医師，院長，経験年数25年，開業年数18年

丸内桜子，受付，勤務年数18年

患者：清水次郎，男性，70歳代

事例内容：受付にて

茶水花子

「清水さん，お疲れ様でした．今日の診療は入れ歯の型取りをしたので，会計は円です．」「次回の診療はいつにしましょうか．」

清水次郎

「いつでもいいですよ．そういえば桜子さん，今日はいないの？」

茶水花子

「今日は息子さん，太一君だったかな？授業参観日でお休みなのですよ．」

清水次郎

「それは残念．」

茶水花子

「なんで，残念なのですか？清水さんは桜子さんファンクラブの会員でした？」

清水次郎

「花ちゃん，今日はとっても綺麗ねえ．」

茶水花子

「いつも，はぐらかすのが得意なのですから．きちんと，歯も磨いて下さいね．さてと，今回は来週の，月曜日は如何ですか？」

清水次郎

「了解しました．いつもの時間がいいのですけど．」

茶水花子

「大丈夫です．10時にお待ちしています．お風邪などひかぬように．」

山上天一

「花子さん，ちょっといいかい．」診療室からの声

茶水花子

「はい．院長先生．清水さん，それでは，お大事に．」

～診療終了後～

茶水花子

「あっ，来週の月曜日は祝日で休診日．清水さんに早急に連絡して，謝らないと．」

山上天一

「花子さん，作業中断は事故の元．ごめんね．僕から後で連絡しておくよ．」

模擬事例：事例番号 03

発生日時：2013年3月11日 10時頃

当事者および関係者：

湯島太郎，歯科医師，経験年数5年，勤務年数1年

茶水花子，歯科衛生士，経験および勤務年数2年

山上天一，歯科医師，院長，経験年数25年，開業年数18年

山上幸之助，歯科医師，前院長

患者：田中六郎，男性，80歳代

事例内容：診療室にて

山上天一

「田中さん，弟さんの件は申し訳ありませんでした。」

田中六郎

「いやいや，八郎も持病があるし，実はね，僕も経験あるのですよ．幸ちゃん（山上前院長）の時もね，いろいろあったから。」

湯島太郎

「本当に申し訳御座いませんでした。」

田中六郎

「まあまあ，無事に排泄されましたから．大丈夫ですよ。」

茶水花子

「それでは，今日は，入れ歯の型を，取らせていただきます。」

田中六郎

「しっかり頼みますよ。」

湯島太郎

「田中さんは，心房細動があるので，念のため血圧・脈拍などを測りますね。」

～1時間経過，印象終了～

湯島太郎

「お疲れ様でした．次回はおみ合わせの確認をしますね。」

田中六郎

「どうも，ありがとう御座いました。」診療台から立ち上がろうとしたところ転倒

茶水花子

「田中さん，大丈夫ですか．額から血が出ています。」

田中六郎

「大丈夫，大丈夫。」ハンカチで額を押さえている。

湯島太郎

「大丈夫ですか．花子さん，大至急，山上院長を呼んできてください。」

茶水花子

「はい。」

模擬事例 事例番号：04

発生日時：2013年4月1日 18時頃

当事者および関係者：

丸内桜子，受付，勤務年数18年

湯島太郎，歯科医師，経験年数5年，勤務年数1年

茶水花子，歯科衛生士，経験および勤務年数2年

山上一，歯科医師，院長，経験年数25年，開業年数18年

患者：山本淳，男性，20歳代

山元隆志，男性，50歳代

事例内容：診療室にて

山上一

「山本さん，お疲れ様でした。」

山本淳

「院長先生，どうも有難う御座いました。」

湯島太郎

「今日は，左の親知らずを抜きましたので，諸注意を守ってくださいね。」

山本淳

「先生わかりました。」

「でも，花ちゃん，ガーゼを咬んだままじゃ，夕ごはん食べられないっすよ。」

茶水花子

「淳さん，ガーゼは家に帰るまでお願いします。その後，麻酔が切れてから夕飯食べてね。詳しくは抜歯後の注意事項説明書に書いてありますから。」

～抜歯後の注意事項説明後，受付にて～

丸内桜子

「山本さん」

山元隆志

「はい。」

丸内桜子

「今日はお薬が出ています。これです。」薬（抗生物質および鎮痛剤）を渡す

山元隆志

「そうですか。はい。」薬を受け取り，鞆にしまう。

丸内桜子

「次回は消毒と抜糸になります。来週日はどうですか。」

山元隆志

「ええっと。次回は入れ歯が出来ているって，先生から言われているのだけど。」

丸内桜子

「山元さん，ごめんなさい。山本淳さんと間違えてしまいました。」

模擬事例 事例番号：05

発生日時：2013年5月10日 12時頃

当事者および関係者：

茶水花子，歯科衛生士，経験および勤務年数2年

山上天一，歯科医師，院長，経験年数25年，開業年数18年

丸内桜子，受付，勤務年数18年

患者：清水ヨネ，女性，70歳代

事例内容：診療室にて

茶水花子

「清水さん，今日は歯のお掃除をさせていただきました．お疲れ様でした。」

清水ヨネ

「いつも有難う．お昼は食べて大丈夫かしら。」立ち上がろうとするが，また座る．

茶水花子

「お食べになってくださいね．でも，その後に歯磨きを忘れないでくださいね。」

清水ヨネ

「ありがとう。」

茶水花子

「お大事になさってくださいね．次回もお待ちしています。」

清水ヨネ

「ありがとう。」立ち上がろうとするが，また座る．

茶水花子

「ヨネさん．大丈夫ですか。」

清水ヨネ

「大丈夫。」立ち上がろうとするが，左に傾いて，また座る．

茶水花子

「そういえば，ヨネさん，顔色が悪いですよ。」

清水ヨネ

「大丈夫．大丈夫。」立ち上がろうとするが，出来ない．顔面蒼白．

茶水花子

「ヨネさん．本当に大丈夫ですか。」

清水ヨネ

「大丈夫．天一先生にも宜しく。」右手を振るが，左手足の動きが悪い様子．

茶水花子

「山上先生，山上先生，大変です。」院長室にて昼食中の山上天一に大声で叫ぶ  
～院長室にて，茶水花子から，山上天一への患者状態報告後，診療室へ～

山上天一

「清水さん，大丈夫ですか．桜子さん，救急連絡．大至急．119番，お願いします。」



模擬事例：事例番号 06

発生日時：2013年6月4日 10時頃

当事者および関係者：

湯島太郎，歯科医師，経験年数5年，勤務年数1年

茶水花子，歯科衛生士，経験および勤務年数2年

山上天一，歯科医師，院長，経験年数25年，開業年数18年

丸内桜子，受付，勤務年数18年

患者：清水次郎，男性，70歳代

清水ヨネ，女性，70歳代

事例内容：受付にて

清水次郎

「このあいだは，うちのヨネがお世話になりました．有難うございました。」

丸内桜子

「ヨネさんの具合はいかがでしたか。」

清水次郎

「それが，幸い．今では，ピンピンしておりますよ。」

「ヨネの主治医の四谷先生が，山上先生の対応が迅速で，とても感心していましたよ．感謝，感謝．衛生士の花子さんのほうは大丈夫。」

丸内桜子

「茶水さんは，昨日までお休みをいただいていたのですが，もう大丈夫ですよ。」

茶水花子

「清水さん，地獄耳ですね．こんにちは．どうぞ．お待たせしました。」

～診療室入室後～

湯島太郎

「本当に大変でしたね．院長先生から聞きました．今日は代わりに見させていただきます．湯島太郎と言います．宜しくお願いします。」

「花子さん．入れ歯が出来ているはずですね。」

茶水花子

「あっ，はい。」歯科技工物置場に義歯を取りに行くが，なかなか戻ってこない．

～受付～

茶水花子

「桜子さん．清水さんの入れ歯がないのよ。」

丸内桜子

「受け取り票，確認するね。」

「あらー．納入まだみたい．権藤技工所に至急，連絡しますね。」

茶水花子

「はい。」

模擬事例 事例番号：07

発生日時：2013年7月1日 19時頃

当事者および関係者：

山上天一，歯科医師，院長，経験年数25年，  
開業年数18年

湯島太郎，歯科医師，経験年数5年，勤務  
年数1年

茶水花子，歯科衛生士，経験および勤務年  
数2年

患者：山本淳，男性，20歳代

事例内容：診療室にて

山上天一

「山本さん．その後はどうですか．」

山本淳

「腫れは治まったのですが，下唇がすこし  
痺れたような感じで，時々チクチクするこ  
ともあるのですが，大丈夫でしょうか．」

山上天一

「わかりました．拝見させてください．」

茶水花子

「山本さん．うがいをしてくださいね．」

山本淳様，含嗽後

「席を倒します．」

山本淳

「はい．」

～診療終了後～

山上天一

「山本さん．傷の治りはとても良いようで  
すが，下顎の骨の中を走っている神経に障

害が出ている疑いがありますね．」

山本淳

「そうですか．」

山上天一

「湯島先生から事前に抜歯に関する説明を  
させていただき，同意書に山本様の御署名  
をいただいていたと思います．念のため，  
A大学病院に照会状を書きますので，専門  
的に一度見てもらったほうが良いかと思  
いますがどうでしょうか．」

山本淳

「そうですか．」ポケットから説明用紙を取  
り出す

「確かにそうですね．急いでいてあまり気  
にはしなかったもので．このチクチクは，い  
つ治りますか．仕事柄，食べることが多い  
ので気になってしまって．」

山上天一

「一過性のこともあります，人それぞれ  
ですので．専門の先生に診てもらいましょ  
う．早いほうが良いと思いますから，早速，  
紹介状を書かせてください．」

模擬事例：事例番号 08

発生日時：2013年8月8日 15時頃

当事者および関係者：

権藤三郎，歯科医師臨床研修医

茶水花子，歯科衛生士，経験および勤務年数2年

山上天一，歯科医師，院長，経験年数25年，開業年数18年

患者：山元隆志，男性，50歳代

清水ヨネ，女性，70歳代

事例内容：診療室にて

茶水花子

「山元さん，今日は入れ歯の調整ですね．どうぞ．」患者（山元隆志氏）を案内

山上天一

「山元さん，こんにちは．」

山元隆志

「院長先生，宜しくお願いします．」

～診療開始～

山上天一

「では，権藤先生，この前と同じ，リベース．一緒にやりましょう．」

権藤三郎

「はい．」威勢よく返事

茶水花子

「院長，清水さんがいらしていますが，どうしましょう．」

山上天一

「ヨネさん？」茶水花子，頷く

「そう，花子さん，案内して．権藤先生，山元さんのリベース，進めてください．」

権藤三郎

「はい．」さらに威勢よく返事

～約20分経過～

茶水花子

「山上先生，山元さんですが，リベースしたのですが，義歯がなかなか外れなくなっています．先ほどなんとか外れたのですが，みていただけますか．」

山上天一

「権藤先生，一休みしよう．山元さん，大丈夫ですか．」移動しつつ様子を伺う

山元隆志

「ちょっと，ここの歯茎が痛い．」口の中を指差す．

山上天一

「そうですね．歯茎が，ちょっと赤くなっていますね．替わりましょう．」

模擬事例：事例番号 09

発生日時：2013年9月9日 10時頃

当事者および関係者：

湯島太郎，歯科医師，経験年数5年，勤務年数1年

茶水花子，歯科衛生士，経験および勤務年数2年

山上幸之助，歯科医師，前院長

患者：田中六郎，男性，80歳代

事例内容：診療室にて

山上幸之助

「六さん，元気？」

田中六郎

「幸ちゃん久しぶりじゃないの．俺は，元気，元気．幸ちゃんこそ，大丈夫？」

山上幸之助

「先月まで入院していたからね．でも，今はゴルフも出来るよ．診療はね，優秀な太郎君がいるから大丈夫．今度，孫娘の結婚式で，また一杯やりましょう。」

湯島太郎

「大先生，有難う御座います．六郎さん，転んで出来た傷は大丈夫ですか。」

田中六郎

「いやあ，この前は助かりましたよ．もちろん，大丈夫ですよ．猪鹿先生にも見てもらいました。」

茶水花子

「本当に良かったですね．でも，無理は禁

物ですよ。」

湯島太郎

「六郎さん，もしも気分が悪くなったら直ぐに教えてくださいね。」

田中六郎

「はい，わかりました．今日も宜しくお願いします。」

～診療開始直後～

茶水花子

「田中さん，それでは，血圧測定しますね。」  
モニターを装着

「あら，血圧，うまく測れないなあ．太郎先生，血圧，測れないのですけど．先月に業者の点検を受けたばかりなのに。」

湯島太郎

「そうですねえ．なんか空気が漏れている音がするよ。」

茶水花子

「田中さん，すみません．一旦，外しますね。」  
血圧計を外し，確認

「あら，こんなところに亀裂がありました．別の血圧計を持ってきます。」

模擬事例：事例番号 10

発生日時：2013 年 10 月 10 日 10 時頃

当事者および関係者：

湯島太郎，歯科医師，経験年数 5 年，勤務年数 1 年

茶水花子，歯科衛生士，経験および勤務年数 2 年

山上幸之助，歯科医師，前院長

患者： 田中六郎，男性，80 歳代

事例内容：診療室にてモニター装着後治療開始

山上幸之助

「六さん，今日はね，咬み合わせの記録をとるのですよ．いいですか。」

田中六郎

「幸ちゃん，大丈夫？」

山上幸之助

「六さんだって，おすし握っているでしょう．生涯現役．でも，今日は太郎が主役．例の最新の良い材料で，やってみようか。」

湯島太郎

「山上先生は本当に研究熱心ですね．感服します。」

山上幸之助

「花子ちゃん，用意して。」

茶水花子

「はい．わかりました。」カートリッジタイプの咬合採取剤を用意

～診療開始～

湯島太郎

「花子さん．それじゃあ，カートリッジにミキシングチップをつけて，準備してね。」患者を座位で治療中，後方にて茶水花子は視界には入らないが，声をかける

茶水花子

「はい。」カートリッジとミキシングチップを接続するのに苦労している．

湯島太郎

「今，ください。」

茶水花子

「・・・。」なんとか接続するも斜めに装着されている．

湯島太郎

「はやく，ちょうだい。」

茶水花子

「はい。」湯島太郎に渡した直後，ミキシングチップが外れてしまい，練和される前の材料が飛びたしてしまい，患者のズボンに付着してしまう．

「あっ．ごめんなさい。」

模擬事例：事例番号 11

発生日時：2013 年 11 月 30 日 19 時頃

当事者および関係者：

茶水花子，歯科衛生士，経験および勤務年数 2 年

山上天一，歯科医師，院長，経験年数 25 年，開業年数 18 年

事例内容：報告件数 0 件

山上天一

「花子さん，今月は，インシデント報告件数 0 件で，いいですか。」

茶水花子

「はい．患者数 200 名，のべ患者数は 500 名になります．コンピューターはなんとなく苦手でしたが，このソフトはクリック操作で進められるので，スマホみたいな感覚で出来ますのでとても良いですね。」

山上天一

「そうですか．どうも有難う。」

茶水花子

「院長，大変お疲れ様です．インシデントソフトへの入力操作は清掃後にしますので，お手数ですが，送信の時に，確認していただけますか。」

山上天一

「わかりました．本当にいつも有難う．今年ボーナス，出すよ。」

茶水花子

「こちらこそ，有難う御座います。」

～インシデントソフト入力・送信，完了～

山上天一

「それでは，お疲れまでした。」

茶水花子

「お疲れ様で御座いました．寒くなってきましたので，週末はゆっくりお休みになさってくださいね。」

模擬事例：事例番号 12

発生日時：2013年12月24日 14時頃

当事者および関係者：

湯島太郎，歯科医師，経験年数5年，勤務年数1年

茶水花子，歯科衛生士，経験および勤務年数2年

山上天一，歯科医師，院長，経験年数25年，開業年数18年

患者：駿河台武蔵，男性，90歳代

事例内容：技工室にて

湯島太郎

「午前終了っと．お疲れさまでした．」

「花子さーん．」

茶水花子

「はい．」

湯島太郎

「駿河台さんの印象は？」

茶水花子

「そこにおいてありますよー．」

湯島太郎

「あーこれですね．僕が石膏をついでおくので，お昼，お先にどうぞ．」

茶水花子

「有難うございまーす．これって，ちょっとしたクリスマスプレゼント？」

湯島太郎

「ゴホン．」咳払い

「あー花子さん，ごめん，ごめん，ちょっ

と待って，技工指示書ある？」

茶水花子

「どうぞ．ではお先に．」

湯島太郎

「駿河台さん，帰り際にB型肝炎があるって言っていたから，技工指示書に書いておこうと思って．」

茶水花子

「えっ．」

湯島太郎

「花子さん，どうかした．」

茶水花子

「たった今，器具を片づけた時に，指けがしちゃった．」絆創膏を見せる．

湯島太郎

「流水でとにかく洗おう．山上院長を呼んできます．」

(倫理面への配慮)

本研究は、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(平成27年4月1日施行)[臨床研究に関する倫理指針(平成20年7月31日全部改正,平成20年度厚生労働省告示第415号)][疫学研究に関する倫理指針(平成20年12月1日一部改正,文部科学省・厚生労働省告示)]などに準じ、大阪大学ならびに研究者の所属する研究機関の倫理規定等に遵守して行われる。

東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会  
平成26年7月18日承認受付番号1112号

患者のみならず、事故当事者の人権保護のため、個人情報はずべて連結不可能な匿名化にて処理され、患者等の個人情報が特定される可能性はない。

パーソナルコンピューター等で管理された情報に関しては、特に情報の漏洩が絶対起こらないように、本研究におけるプライバシーポリシーを遵守し、十分な注意を払い、関連研究者に徹底する。

データ保存・管理には細心の注意を払い、データの内容等については個人が持ち出さないようにし、すべて研究班の管理とする。

また、歯科医療機関から報告された有害事象や患者相談などの医療事故等の各事例内容等についての公表は本研究の趣旨からは外れるため、一切行わない。

## C. 結果

歯科診療に特化したインシデント模擬事例の歯学教育への活用

平成27年度東京医科歯科大学歯学部2年時カリキュラム「医療安全と危機管理の基礎」において、45名の学生に対して、本模擬事例を教育に活用した。全事例について検討を行い、a.事例分類、b.患者影響度分類、c.原因、d.対策について回答を求め、アンケート自由記載には下記のような回答を得た。

(ア) 考えることを想定して行動する必要があるなと感じた。

(イ) 様々な事例を区別する必要があるのだなと思った。

(ウ) 事例分類が30パターンもあることは驚きだった。

(エ) 将来、何らか間違いをするリスクはどうしてもあるので、今から危機管理を持ち、何に気を付けるか考える契機になった。

(オ) 歯科医師と言っても、万が一、命の危険にさらされることもあるので、全身の疾患についてある程度詳しくなっておかないといけないと思った。やはり報告・連絡・相談はとても大事なのだ



なと思った。

(カ)難しかった。

(キ)判断が意外と難しかったです。

(ク)しっかりと確認をし、リスクマネジメントすることが大切だと思った。

(ケ)普通の授業とは違って、現実に即している内容で興味が持てた。

(コ)分類するだけだと思ったが、意外と難しかった。

(サ)分類が多いが、分類することで、次にこのような事が起こらないように対策が取れて良いと思った。

(シ)医療安全の難しさを知りました。

(ス)歯科医師だけでなく衛生士や受付係なども含め、何気ない対応、確認もれが重大なミスへとつながるため、チェック表などを作ることにより、誰でも、いつでもミスが防げるシステムを構築する事が重要だと感じた。

(セ)リアルな事例がたくさんあって、将来気を付けなければと思った。

(ソ)とても分かりやすかった。

(タ)医療は様々なミスがあるが、それを防ぐためにすることは、そこまで大変な事でもないので、事前に対策することが大切だと改めて実感した。

(チ)意外と自分がミスに対する意識を持っていなかったなと反省しました。ヒューマンエラーを少なくする努力をしていきたいです。

(ツ)患者影響度分類のレベルは事例の(発生した)時点ではわからない(こともある)のでは?と思いました。

(テ)様々な事故があることを念頭において行動したいと思った。

(ト)医療安全の大切さを理解できた。

(ナ)実際に起こりうるケースだと考えると、細心の注意を払って医療に従事すべきだと思いました。

(ニ)よく分かりました。

カリキュラムの評価については5段階評価を行い、平均値は下記の如くであった。  
4.42~4.70と、総じて高評価であった。

1. 授業内容について

1-1 多くを学べたか

: 4.53

1-2 理解できたか

: 4.53

2 . 授業担当者・授業方法について

2-1 進度は適切か

: 4.70

2-2 興味を持ったか

: 4.47

2-3 準備は十分だったか

: 4.60

2-4 説明は分かりやすかったか

: 4.58

2-5 学生の思考, 分析, 理解を促したか

: 4.58

2-6 教材は適切だったか

: 4.53

3 . 授業態度

3-1 質問への対応は適切だったか

: 4.60

3-2 授業中熱心に取り組んだか

: 4.51

3-3 自習は熱心に取り組んだか

: 4.49

4 総合点

: 4.42

本システムに関する照会ならびに意見  
等

当初の計画通り, 公益社団法人日本歯科  
医師会等の関係者の参画を得た。昨年度の

調査協力 10 都道府県歯科医師会ならびに  
他 37 都道府県歯科医師会への協力を依頼  
し, 全国 47 都道府県, 全ての都道府県歯科  
医師会の地区担当者への説明を行なった。

各都道府県の調査協力歯科診療所選定の  
後に, 全都道府県におけるモデル歯科診療  
所ネットワーク構築を展開し, 必要に応じ  
て対応を行った。

(資料3) ソフトウェアに関する照会お  
よび回答例資料

本システムに関して, 計 43 件の照会があ  
った。

調査協力歯科診療所に対して, 必要に応  
じて研究班員が直接出向いて調査を施行し  
た。

平成 27 年度研究期間内に, 北海道・東北  
地区の 2 都道府県, 関東甲信越地区の 4 都  
道府県, 北陸・東海・中部地区の 2 都道府  
県, 近畿地区の 3 都道府県, 中国・四国地  
区の 2 都道府県, 九州・沖縄地区の 2 都道  
府県の地域担当者や歯科診療所担当者へ直  
接ヒヤリングする機会等を得た。

ヒヤリング等の結果にて, 評価は概ね良  
好であった。

歯科診療所における医療の質・安全関  
連情報(案)の作成

一般社団法人医療安全全国共同行動診療

所部会（歯科）にて、昨年度の結果等も踏まえて要因等の分析を行い、公益社団法人日本医療機能評価機構医療事故情報収集等事業における関連情報についても参考にし検討を行った。

口腔内への落下，誤飲・誤嚥に関する歯科診療所における医療の質・安全関連情報（案）を作成した。

（資料5）歯科診療所における医療の質・安全関連情報（案）資料

（資料6）医療安全全国フォーラム 2015 歯科診療所における医療安全の行動目標とその取り組み 宮本智行 資料

#### D. 考察

歯科診療に特化したインシデント模擬事例の歯学教育への活用，本システムに関する照会ならびに意見等，歯科診療所における医療の質・安全関連情報（案）の作成を推進した。

我々が先行研究における歯科診療所に特化したインシデント分類，すなわち，

受付，応対，接遇

情報収集，情報伝達の不備

検査，エックス線写真

患者誤認

診断関連

インフォームドコンセント

患者(家族)等とのトラブル，院内暴力

口腔内への落下．誤飲，誤嚥

歯や口腔，顎，顔面等の損傷

異物等の残存．迷入，陥入

衣服，所持品の汚染．破損，損傷

機械，器具の誤操作．破損，紛失

部位の間違い

神経麻痺等の合併症

処置，手術に関連したその他の有害事象

薬剤

感染制御，院内感染

全身状態悪化，救急搬送

転倒，転落，打撲

歯科医療機器，材料．設備等の管理，監督

診療録記載，管理

歯科技工関連

防災管理，火気取扱

診療従事者管理

において，

口腔内への落下．誤飲，誤嚥の事例が，昨年度の調査にて，85 から 1 か月間，302 件のインシデント等の事例報告があり，その内訳として，受付・応対・接遇が 66 件に，次いで 40 件であった。本年度の実態調査においては 342 歯科診療所より 1304 件の報告があり，受付・応対・接遇に関する事例が 352 例と最も多く，次いで口腔内への落下，誤飲・誤嚥が 123 例であった。

一方，訪問歯科診療に関する事例は 21 件であり，口腔内への落下，誤飲・誤嚥が 4 例と最も多く，次いで検査・エックス線写真であったことを踏まえ，口腔内への落

下．誤飲，誤嚥の事例は死亡に直結する可能性もあり，医療事故調査制度施行後において最も重要な項目と位置づけて要因分析等の検討を行った．

公益社団法人日本医療機能評価機構医療事故情報収集等事業における関連情報についても参考にし，口腔内への落下，誤飲・誤嚥に関する歯科診療所における医療の質・安全関連情報（案）を作成した．

小規模な開業形態の無床歯科診療所における医療安全管理を推進してゆくにあたり，昨年度作成した模擬事例および，本情報等を活用してゆくことで，未然に事故防ぎ，患者安全を推進してゆくものであることが示唆された．

本年度の大規模調査を踏まえ，歯科診療所から現実に発生したインシデント等の医療安全関連情報を共有するための基盤構築にあたり，大いに活用されることを期待するものであるが，恒常的な医療安全管理の推進には，

- 1．訪問歯科診療等においては更なる調査研究が必要であること，
- 2．恒常的な歯科診療所における医療安全管理の推進には小規模な無床診療所に特化した検討が必要であり，現時点で十分な組織的対応がなされているとは言い難いこと，

- 3．以上より早急に本システムを国レベルで継続して運用する必要があること，等が示唆された．

## E. 結論

本年度，全国 47 都道府県，全てに研究を展開した．昨年度作成した模擬事例については，歯学部学生教育に活用し大変有用であった．

事例要因分析等を継続し，歯科診療所における医療の質・安全関連情報（案）を作成した．

これらの成果を第 10 回医療の質・安全学会等にて報告した．

## G. 研究発表

### 1．論文発表

1) 井上 卓俊，宮本 智行，深山 治久，楠本 康香，篠塚 修. Wiskotto-Aldrich 症候群患者に対する歯科診療時の鎮静法による全身管理経. 日本歯科麻酔学会雑誌.44 巻 1 号.P.17-19.2016 .

### 2．学会発表

1) 宮本 智行, 瀬古口 精良, 溝渕 健一, 松尾 亮, 片山 繁樹, 比嘉 良喬, 武藤 智美, 青山 政勝, 笹井 啓史, 森崎 市治郎. 歯科診療所におけるインシデント等の医療安全に関連する

情報収集ならびに共有の促進. 第10回医療  
の質・安全学会・幕張・2015.

2) 間宮 秀樹, 深山 治久, 宮本 智行, 脇  
田 亮, 堀本 進, 榎本 雅宏, 和田 光利, 渡  
辺 真人, 片山 正昭, 鈴木 聡行. 歯科治療  
中に「要観察」事象が認められた要介護高  
齢者症例の検討. 第26回日本老年歯科医学  
会総会・学術大会・2015.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許所得

なし.

##### 2. 実用新案登録

なし.

##### 3. その他

なし.